

いの流水俳壇

「当季雑詠」

特選

人声や額紫陽花の佇まひ

植田 紀子

(評) 額紫陽花は、中心に小花が密生し、周囲を大型の装飾花が囲んでいる。清楚で素朴な感じがあり、独特の趣を持つ。略して「額の花」ともいう。鷹羽狩行は「この頃の 雨読晴読 額の花」と詠んでいる。揚出句「人声や」で、一人ではなく二人以上の人が、作者の家の門前に置かれたと思われる鉢植えの「額の花」の風情、趣、色彩に、目を奪われ、しばらく立ち止まり、觀賞していたのである。上五「人声や」と座五「佇まひ」の表現で、花のゆかしさを十分に描出。巧みな筆力の生せる作品に感動。

電動自転車スイート青葉坂

岡村 嘉夫

(評) 卒寿を迎えられた作者は、好天の薫風に誘われて、近くまで外出をし、道の辺りに腰を下ろして一休みしていた。そこで出合ったのが、電動自転車。眼前を一台の自転車が、すいすいと過る前方にある坂道。季節は五月半ば、緑滴る新緑が日に映えて眩しい。この坂道を座五「青葉坂」と表現。またその坂道を軽快に越して行く様を「スイート」と表し、いかにも気持ち良いと詠む。電動自転車は充電をし、電力で走るので、足の疲れを軽減する。特にこの電動自転車の走りの良さを「スイート」と言う絶妙な表現は、瑞みずしい「青葉坂」と相まって、乗ってみたい思いの弾む一句。

ガーベラに眩しき日射し風笑ふ

津田 久美

(評) ガーベラは、タンポポを大きくした形で、我が家の庭先には、三十年前から植えられ、現在も健在。当初よりは倍ぐらいに広がり、毎年開花期が来ると、緑の広葉の中を突き出るように、花径を真っ直ぐに次々伸ばして、真紅の花を咲かせる。今年は開花が早く、花数も増え、揚句のように、好天の日射しを纏うと、辺り一帯を明し、紅が際立ち人目を集める。座五「風笑ふ」の表現は、吹く風までが嬉しそうに笑ったとは、如何にも新鮮で愉快。風だけではなく、私も思わず笑顔に。作者の弛みなき作句への向上心が育んだ、ゆとりとも見える楽しい作品。

入選

あかときや月傾けている蝸牛

あかららもう真夏日となりし空

隆隆と白花梅檀五百年

夏めくや百三才の叔母逝けり

ダムの水落つる底より夏の霧

吹き上ぐる潮の香もろに夏近し

夏場所や小さき力士の勝ち名乗り

体操を待つ間の時間草むしり

行商車待ちつ燕を眼で追いぬ

裏窓はしとしと雨の杜若

東谷 晴男

森岡 照月

村田佐代湖

片岡 豊子

川村 博子

一句抄

気の早い風鈴路地の奥にかな

花水木赤花に胸焦がしけり

螢火を待つ間の話はすみけり

谷覆う卵の花咲きて汚れなく

山一面もこもこ銀に椎の花

採血のあとは売店柏餅

母から娘へ風ふふませて阿波しじら

聖五月赤ぐつ黒ぐつ親の靴

救急で命助かる夏の夜

初生りの胡瓜一つを持ち帰る

霏がかかる白いカーテン六月へ

東谷 晴男

森岡 照月

村田佐代湖

川村 博子

片岡 豊子

岡村 嘉夫

植田 紀子

津田 久美

石原 静

平野 洋子

刘谷 志津

次題「当季雑詠」

締切/毎月1日

投句先 教育委員会事務局

いの町170001

89331922

有料広告

やまおか眼科

院長 山岡 昭宏

いの町新町20-1

TEL (088) 893-5161

■日帰り白内障手術

■OCT (光干渉断層計)

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:30	○	○	○	○ 13:00 まで	○	○
午後 2:00~5:30	○	手術	○	△	○	▲

▲第2、4土曜日 午後1:30~4:00

▲第1、3、5土曜日 午後休診

休診/木曜午後 日曜祝日